

# クロソイ放流技術開発事業

## (要約)

涌坪 敏明・中西 廣義・横山 勝幸・鹿内 満春

本事業は、クロソイ放流技術の開発を目的とする事業のうち、その基礎となる種苗生産、中間育成技術の開発・確立を目標に平成2～6年度の5ヶ年で実施したものである。ここでは平成6年度の結果の概要を以下に報告する。

なお、詳細については、「平成6年度クロソイ放流技術開発事業報告書・クロソイ班」（平成7年3月、宮城県他）として報告した。また、5ヶ年の総括として「平成2～6年度クロソイ放流技術開発事業総括報告書・クロソイ班」（平成7年3月、宮城県他）として報告した。

### 1) 種 苗 生 産

#### a 親 魚 養 成

3月18日に平均全長45.2cm、平均体重1.62kgの親魚83尾を海面網生簀から陸上水槽2面に収容し、自然水温で飼育した。

仔魚の産出は5月7日～6月6日の間でみられ、その盛期は5月13～22日であった。今年度は、加温コントロールによる仔魚の早期産出は行わなかった。1尾あたりの仔魚の産出数は、32～245千尾、平均89千尾であった。仔魚の全長は、6.5～7.4mmであった。

#### b 仔稚魚の管理

仔魚788千尾を30<sup>3</sup>m<sup>3</sup>円形FRP水槽2面に収容した。43～48日間飼育し、平均全長26.7～26.8mmの種苗278千尾を生産した。生残率は35.3%であった。

### 2) 中 間 育 成

近年の中間育成技術では、生残率が6～7割見込める段階となっている。今後の課題としては、疾病の防除対策などの飼育管理技術の改善によるより一層の生残率の向上があげられる。

#### [北 金 ヶ 沢]

7月4日と7月7日にそれぞれ平均全長41.7mm、41.8mmサイズの種苗合計80千尾を港内網生簀に収容し、中間育成を行った。8月23日に飼育管理上のトラブルから無標識放流となった。このため、脇野沢で中間育成し、右腹鰭抜去の標識を施した平均全長78.8mmの種苗40,000尾を、10月12日に運搬し、北金ヶ沢地先へ放流した。

#### [脇 野 沢]

7月6日、7月13日及び7月22日にそれぞれ平均全長43.5、44.7、51.7mmサイズの種苗合計195千尾を海釣り公園前網生簀に収容し、中間育成を行った。放流は10月18日に、左腹鰭抜去のみの小型群（平均全長78.8mm）52,474尾、及び左腹鰭抜去到アンカータグ標識を施した大型群（平均全長100.6mm）38,710尾を脇野沢地先へ放流した。生残率は67.3%であった。